

あなたとあなたの大切な人を守る HPV ワクチン (Vo.2)

以前に HPV ワクチンの基礎的なことについてお話ししました。

12月23日(木)には、厚生労働省が「積極的勧奨」を中止していた間に接種対象となっていた **1997～2005年度生まれの女性を、公費での接種対象にすることを了承**し、ますます接種が加速すると思われます。

そこで今回は、特に気になる HPV ワクチンの**安全性**や**費用**についてお話をしたいと思います。

また、「**定期接種の対象外である場合は打つべき?**」「**すでに性交渉している場合の効果はどの様なの?**」という私自身も感じた疑問に対しても書きました。

目次

- ① HPV ワクチンの安全性について
- ② 定期接種の対象外だけどうすればいい?
(すでに性交渉している場合はどうすればいいの?)
- ③ 自費で接種する場合の費用は高い!?
- ④ 東電健保の費用補助のご紹介



① HPV ワクチンの安全性について

2013年に、ワクチン接種後に記憶障害や神経症状など、副反応を疑う症状に関する報道が流れ、恐怖を感じた記憶があります。しかし、積極的接種が推奨されている今、HPV ワクチンの副反応は実際のところどんなことが起きるのか気になるところです。

HPV ワクチンの副作用は以下のとおりです。

(3種類のワクチンの違いについては、前回の記事をご覧ください。)

	サーバリックス® (2価ワクチン)	ガーダシル® (4価ワクチン)	シルガード®9 (9価ワクチン)
10%以上	痒み、注射部位の痛み・赤み・腫れ、悪心・嘔吐・腹痛、筋痛・関節痛、頭痛、疲労 など	注射部位の痛み・赤み・腫れ	注射部位の痛み・赤み・腫れ
1～10%未満	じんま疹、めまい、発熱 など	発熱、注射部位のかゆみ、頭痛	発熱、注射部位のかゆみ・熱感・出血・知覚の消失、頭痛、悪心 など
1%未満	注射部位の知覚異常、しびれ感、全身の脱力	倦怠感、手足の痛み・不快感、注射部位の出血・不快感・硬結・熱感・知覚低下 など	四肢の痛み、腹痛・下痢
頻度不明	手足の痛み、失神 など	悪寒、疲労、失神、嘔吐、関節の痛み・筋肉痛 など	悪寒、疲労、注射部位の内出血、失神、浮動性めまい、嘔吐、関節の痛み・筋肉痛 など

他のワクチンと比べても、大きな差はない印象です。

(参照: ミンパピ <https://minpapi.jp/hpvv-probability-of-adverse-effects/>)

※日本において2013年度にワクチン接種後に報告された広範な疼痛や運動障害、不随意運動、起立性調節障害などの多様な症状について、国内外で多く調べられてきましたが、**ワクチン接種との因果関係を示す報告はありませんでした**。つまり、この報告された症状は副反応ではなく、**ワクチンを接種していても接種しなくても起こった可能性がある**と言えます。

(参照: 日本産科婦人科学会「子宮頸がん HPV ワクチンに関する正しい理解のために (第3.1版 2020年7月21日)」

https://www.jsog.or.jp/uploads/files/jsogpolicy/HPV_Part1_3.1.pdf)

副反応発生時の支援体制

ワクチンは安全性がしっかり証明できたものだけが接種出来ますが、稀に重篤な副反応や新たな副反応が見つかることがあります。

そんな時のために、ワクチン接種後に多様な症状が現れた人たちへの診療体制の整備もなされています！
現在、接種後に何らかの症状が現れた方のための診療相談窓口が全国の医療機関に設置され、全ての都道府県に整備されています!! 一覧はこちらから↓

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/medical_institution/dl/kyoyroku.pdf

これらの協力医療機関においては窓口担当者が定められ、関連する診療科間の連携が図られ、必要に応じて診療の専門医のいる施設への紹介体制もすでに整備されています。安心ですね♪



② 定期接種（小学校6年生～高校1年生相当の女の子）の対象外だけどうすればいい？ すでに性交渉している場合はどうすればいいの？

- HPV は性交渉により感染するため、はじめての性交渉よりも前に接種するのが最も有効と言われています。また、年齢が低い方がワクチンによる免疫反応も良いため、すでに高校2年生以上の場合、接種するのならなるべく早めの接種がより有効であると言えます。
- 疾病対策予防センター（Centers for Disease Control and Prevention: CDC）は26歳まではHPVワクチン接種を推奨しています。だいたいこの年齢であれば、「ワクチンの効く全てのHPVに感染していないだろう」「新しいパートナーを持つ可能性が高いだろう」ということでワクチン接種の費用対効果が見込めると考えられているからです。

○27歳以上については、個々のライフスタイルによって接種の意義は変わります。

個人的な見解ですが、ワクチンの効く全てのHPVに感染している可能性は低く、すでに感染している型には効果がありませんが、これから感染する可能性がある型に対しては効果があります。新しい型に感染するリスクがある場合、つまり「新しいパートナーを持つ可能性が高い」場合は接種の意義はあるのではないかと考えています。定期接種の対象外で、接種をお悩みの方はかかりつけ医に相談してみましょう！



③ 自費で接種する場合の費用は高い！？

定期接種の対象者は、無料で受けることができます。しかし、定期接種の対象外の方は、**自費での接種**となります。

○HPV ワクチンの費用

2価（サーバリックス）：3回で合計 約 45,000 円～60,000 円

4価（ガーダシル）：3回で合計 約 45,000 円～60,000 円

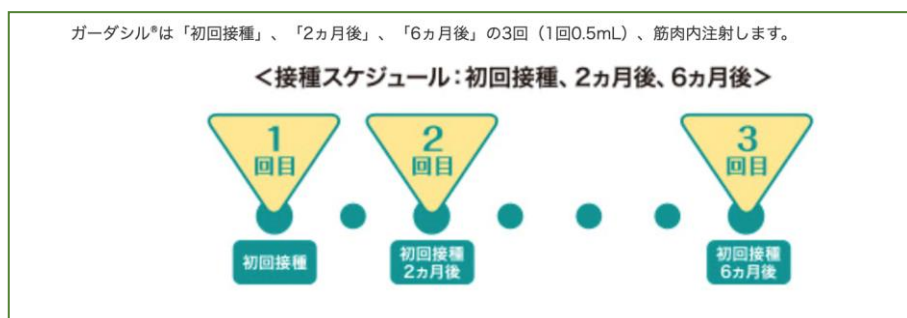
9価（シルガード9）：3回で合計 約 100,000 円

（病院・クリニックにより費用が異なりますので、接種前にご確認ください。）

○接種スケジュール

HPV ワクチンは全部で 3 回接種します。

標準的な接種スケジュールでは、1 回目の接種から、2 ヶ月後に 2 回目（サーバリックスは 1 か月後に 2 回目）、6 ヶ月後に 3 回目の接種をします。全 3 回接種するのに通常 6 ヶ月以上かかります。



（参照：MSD https://www.msconnect.jp/products/gardasil-silgard9/gardasil_usage.xhtml）

④ 東電健保の費用補助のご紹介（必見！！）

費用が高すぎる!?と思ったあなたへ嬉しいお知らせです。

東電健保では現在、認可されている**全種類の HPV ワクチンの全額費用補助**を実施しています!! □

詳細は東電健保ホームページ【「子宮頸がんワクチン接種」への健保補助の実施について】をご覧ください。

⇒ https://www.todenkenpo.jp/NEWS/checkup/20211117_01.html

※社員の方は社内イントラにも掲載しておりますので、そちらからもご覧いただけます。



あなたや、あなたの大切な人を守るために、接種機会を逃した方は、この機会に接種の検討をしてみてください。いかがでしょうか。